航空

2024年4月18日

平野ロジスティクス
ヘッド50台／トレーラー100台体制に

充実したトレーラー群のもとで高品質サービスを提供している

　平野ロジスティクスがトレーラーによる貨物輸送力をさらに高める。現在はヘッド（牽引車）37台／トレーラー（荷台）70台の体制を、今後2～3年以内にヘッド50台／トレーラー100台体制に拡大する。一回の運行でより多くの貨物を輸送できること、ヘッドとトレーラーを切り離してオペレーションすることによる待機時間解消・運行効率化などトレーラーのメリットを最大化。より効率的、高品質の輸送サービスを提供して顧客のコスト削減、環境負荷低減につなげる。燃費効率を高めた最新のスカニア製のヘッドも発注。今夏の投入を計画している。

　平野ロジスティクスはトレーラーを利用した空港間輸送で強みを発揮している。長距離の輸送もヘッドとトレーラーの切り替えによる「中継輸送」で、効率的な輸送体制を構築。ドライバーにとっても中継地点からの折り返しで出発地点に戻ることができるなど、労務環境向上につながっている。トレーラーの活用により、一回の運行あたりの貨物輸送量は大型トラックの平均約1.7倍となり、貨物輸送の効率化を実現している。

首都圏での事業展開を見ると、現在、成田―羽田間のOLTに関しては、成田空港の南部貨物地区にトレーラー（荷台部分）の専用置場を確保している。専用スペースに置かれているトレーラーに順次、貨物を搭載。貨物搭載が完了したトレーラーをヘッドが順次、牽引して輸送する。

トレーラーの運行と貨物搭降載作業を切り離すことで、それぞれの作業を同時進行で実施できる。運行が、貨物搭降載作業の制約を受けないため、待ち時間の解消につながるとともに、運行効率を高められる。空港現場には積み降ろしに携わる専任のオペレーターを配置。上屋の状況を把握しながら、貨物の積み降ろし、貨物の保管・管理状況などを常時、確認して品質・安全を確保している。

益子研一取締役営業本部長は「トレーラーを活用した成田―羽田間の効率輸送を実現する『成羽シャトルシステム』の構築に10年以上前から取り組んできた成果が表れている。首都圏空港の一体的運用に貢献していく」と語る。

さらなる高品質サービスの提供、物流効率化を図るべく、ヘッドおよびトレーラー体制をさらに増強する。益子取締役は「今後2～3年内にヘッド50台／トレーラー100台体制を計画している。『OLTイノベーター』として、コスト低減や環境負荷低減を追求し、航空貨物業界の発展に貢献する」と強調する。将来的にはヘッドおよびトレーラーの体制が大型トラックの台数を上回る計画を描いており、トレーラーを中心とした車両体制をより強固なものとする。環境負荷低減策に関しては、ハイブリッド大型車を導入しているほか、顧客企業との連携のもとで、トラック輸送にバイオ燃料を活用する試行事業を4月に計画している。

現在の平野ロジスティクスの車両体制は、トラックは大型車を中心に約200台。これにオリジナル・トレーラーが加わる。現在のオリジナル・トレーラーは▷大型トラックよりも96インチ仕様のULDを2台多く搭載できる「＋2」▷同1台多く搭載できる「＋1」▷「＋1」に改良を加えて背高貨物などへの対応に柔軟性を持たせた「＋1α」▷「＋1」に空調機能を施した「＋1COOL」▷大型トラックよりもLD3換算で7台多くコンテナを搭載できるとともに複数のパレタイズ貨物を搭載できる「＋7」▷「＋7」に改良を加えてコンテナを8台多く搭載できる「＋8」▷「＋7」に空調機能を持たせた「＋7COOL」など。

「＋1」に空調機能を施した「＋1COOL」も投入し、高品質が求められる医薬品輸送や精密機器輸送に特に力を発揮している。航空機エンジンなどの大型貨物を搭載できる平ボディ・トレーラーも配備している。